

■今年度の活動内容設定時に参考とした「他校の環境に関する取組」									
取組 テーマ	取組目標	具体的な活動内容		担当者	活動 主体	取り組んだこと、その実績	1 年を振り返って		
省 エ ネ ル ギ ー の 推 進	日常の学校生活 の中で省エネ ルギー活動を実践し ます。	1	使っていない電気をこまめに消し、水道は流したままにせず、蛇口をきちんと閉める。	全職員	全学年 教職員	学校職員は、省エネルギーの推進に取り組み、使っていない水道をこまめに止め、電気も無駄に使わないようにした。児童たちにも環境意識を高めてもらうため、雨水タンクを活用して生き物の飼育や植物の栽培を行い、実践的に省エネルギーを学んでいる。雨水を使って植物を育てることで、水の大切さやエネルギー消費の削減を実感し、環境への配慮を深めた。このような取り組みを通じて、学校全体の環境意識が向上し、持続可能な社会づくりに貢献する意識が育まれている。	【取組の評価】 ☒ 達成できた ☐ ほぼ達成した ☐ 達成できなかった 【理由】 ○電気・水道の使用のこまめな意識付けが定着し日常化している。 ○学習活動および学校生活のなかでの雨水タンクの使用が日常化している。 【今後の課題】 ○引き続き、省エネ活動の意識付けを行っていく。 【次年度への引継ぎ事項】 ○引き続き、省エネ活動の意識付けを行っていく。		
		2	雨水をためるタンク「雨みず君」に水をため、花に水撒きをするときに利用する。	緑化委員会	児童				
資源・4R・ 廃 棄 物 削 減の取組	ごみの分別・リサ イクル活動等を 推進し、ごみの量 を減らします。	1	資源の再利用や、ごみ問題など、身近な環境学習を、施設見学を通して学習する。	4 年各担任	児童	各学年では資源保護に関する学習に取り組み、身近な環境問題への理解を深めている。低学年では、資源の再利用やごみ問題について学び、施設見学を通じて実際の環境保護の取り組みを学んだ。中学年では、国土の自然や森林の働きについて学び、自然環境を守る大切さを実感した。高学年では、エネルギーの利用と地球環境への影響、自然の力を学び、持続可能な社会のための知識を深めた。また、牛乳パックの再利用や ICT 技術を活用した紙の使用削減にも取り組み、実生活で環境に配慮する方法を実践している。	【取組の評価】 ☒ 達成できた ☐ ほぼ達成した ☐ 達成できなかった 【理由】 ○各学年において、学習過程においてリサイクル活動が組み込まれている。 【今後の課題】 ○引き続き、リサイクル活動を推進していく。 【次年度への引継ぎ事項】 ○引き続き、リサイクル活動を推進していく。		
		2	国土の自然・森林の働きについて学習する。	5年各担任	児童				
		3	エネルギーについて、地球環境と自然の力を学ぶ。	6年各担任	児童				
		4	ICT 技術の活用により、紙の使用を控える。	全職員	教職員				
		5	牛乳パックの再利用	各学年担任	全学年				
生きもの・ みどり	植物の育成等を通 して、子どもたち の自然を大切に するところを育 てます。	1	一人一鉢栽培の実施	1・2・3年各担任	児童	次の活動を通じて、子どもたちの自然を大切にする心を育んだ。まず、一人一鉢栽培を実施し、各自が植物を育てることで、自然の成長過程を学んだ。また、緑を増やす工夫として、ツルレイシを使った緑のカーテンづくりにも取り組み、環境保護の重要性を実感した。さらに、野菜の栽培と収穫を通じて、自然と直接触れ合い、食物の大切さや自然の恵みへの感謝の気持ちを育むことができた。これらの活動を通じて、子どもたちは自然環境を大切にする意識を深めた。	【取組の評価】 ☒ 達成できた ☐ ほぼ達成した ☐ 達成できなかった 【理由】 ○教育課程において、生命にかかわる活動が設定され取り組まれている。 【今後の課題】 ○引き続き教育課程において、積極的に取り組んでいく。 【次年度への引継ぎ事項】 ○引き続き教育課程において、積極的に取り組んでいく。		
		2	緑を増やす工夫をする。（ツルレイシを使った緑のカーテンづくり等）	4年各担任	児童				
		3	野菜の栽培と収穫を通して、自然にふれあう。	1・2・3年各担任	児童				

●写真等の記録：活動や発表の風景等取組の記録を、必要に応じて添付してください。写真等の下に、キャプションをご記入ください。個人情報の取り扱いにご注意ください。



**栽培活動を通じ、自然に親しみ
省エネに貢献した。**



●学校長(推進責任者)によるコメント

【学校長名】 赤池 理

【今後の方向性について】

学校全体で緑化に取り組んでいるので、植物の育成に関わり、子どもたち一人ひとりは自然を大切にする気持ちが培われている。生活科や理科、総合の授業で植物を育てることはとても価値があるので、今後も継続して取り組んでいく。合わせて、地域の方に協力をいただき、校地外の畑で野菜の栽培にも関わることを通して、収穫の喜びを味わい、野菜に愛着をもち好き嫌いをせずに食べるようになるとともに、地産地消の意識も育めているので、引き続き連携を図っていきたい。

資源に関しては、リサイクルや省エネは当然理解しているものの、実際には上手にごみの分別ができていない場面に遭遇することもある。打ち合わせ等での周知を徹底し、大人が率先して取り組んでいくことで、子どもたちへも意識化させていきたいと考える。

今後については、この恵まれた環境を活かし、今までの積み重ねに加え、自分たちで環境について課題を設定し、自発的に探究できるように手助けを行っていきたい。

